

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.114

2009/04/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 空から観ると



4月18日の総見山からでは北部湿原が見えませんでした。ならばとセスナで飛んでみました



湿原北部上空から (09/04/24)

4月18日に会員の探索ということで「総見山」に登り湿原を見渡しましたが、北部湿原は山陰となり全貌が観られませんでした。復元した北部湿原の状態や周囲の植生の状態（特にブナの分布域の確認）を観るためにセスナから撮影しました。こうして見ると「山門水源の森」域は一部に植林があるものの二次林が奇跡的に残されているのが印象的です。画像中の鮮やかな緑に見える部分がブナの分布域です。白く見えるのはカスミザクラですが、森内に点在しているのがよく分かります。更に下の湿原部分に注目すると4年間をかけた北部湿原の復元ですが、如何に広いかが目瞭然です。中央湿原奥（画像の右下）は、遷移が進んでいることがわかりますが、北部湿原との対比のため現段階では復元は考えない方がいいのかも知れませ

ん。これについては、これから議論してゆきたいものです。今回の飛行ではややモヤっていたもののかなり鮮明な画像がかなりの枚数撮れています。ご利用される方は事務局へご連絡下さい。ただ外部で使用される場合は「画像提供：山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」と明記して下さい。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



## 季節の動き

4 月中旬までは暖冬の影響で季節の動きが早かったものの、下旬の低温で停滞気味となり、この時期のメインとなるカスミザクラはほぼ平年の開花となった。一方ユキバツパキは、暖冬の影響をもろに受け早々に開花が終了した。下旬の低温は羽化時期のトンボを直撃。羽化の翌朝の低温でクロスジギンヤンマはあえなく昇天という事態。昨年多数の羽化が確認出来たクロスジギンヤンマ、シオヤトンボは今年は非常に少なかった。これは気象現象のみに起因するとは言いつねないが注視しておく必要がある。



凍死したクロスジギンヤンマ



カスミザクラ満開 (09/04/29)



追跡調査

「ブナの森」調査区に残っているブナ

2005 年のブナの豊作に伴い 2006 年多数の実生が発芽し (996 個体発生) 「ブナの森」で継続調査を実施している。4 月 29 日現在残っているのは 23 株であり 2.3 % である。

森では年々新しい事実の確認が続いているが 5 月 3 日復元した北部湿原の東側の湧水地

点 2 カ所に「カンムリタケ」が確認された。



新確認

カンムリタケ (09/05/03)



鹿の食害

古葉を喰われたオオイワカガミ (09/05/03)

全コース沿いで実施しており、この効果で年々ササユリの実生の発生が増加してきました。特に今年の実生の発生は多く数年後の開花が待ち遠しいところです。こうした人為的保護活動について今後

疑義が出ることも予想されます。選別的に保護することへの問題

視です。コース沿いの草刈も、無差別に行うのではなく、咲けば綺麗だとか、注目種だから刈り残すという恣意的選別を行っているからです。がかつての山仕事でもこうしたことは行われていました。山道を重い荷物を背負って降りる際に休憩する場所には、美しい花や木を残したりしました。ここ「山門水源の森」の守護岩付近には、特別に太いブナが数本残っていますが、これも往時の人々が恣意的に残してくれたものに他なりません。



金網設置作業 (09/05/02)



金網を運搬する会員 (09/05/10)